

## 環境学習・環境教育検討小委員会 議事概要

## 1 第1回小委員会

日 時	平成27年7月23日(木) 10:00～12:00
場 所	兵庫県庁2号館1階 視聴覚ルーム
出席者	鈴木会長、中瀬委員長、今井委員、岩木委員、小川委員、清野委員、嶽山委員、名須川委員、伴委員
内 容	兵庫県環境学習環境教育基本方針改定の方向性等の検討
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさとに帰りたいと思えるような心を育てる環境学習を進めてほしい。</li> <li>・環境学習・教育の目的を理解し共有することが必要である。</li> <li>・これまでの積み重ねを大切にしてほしい。現方針の「五感で学ぶ」「体験する」というところは非常によく出来ている。</li> <li>・幼い頃からの環境学習・教育が一番大切。幼い時から、高校、大学、若い人ぐらいが対象ではないか。</li> <li>・成人になって親になっても子に環境のことが語れない。</li> <li>・親子、祖父母と孫と一緒に学ぶという目線が必要。また、若い世代とシニア世代との交流が必要ではないか。</li> <li>・教え込むのではなくファシリテーションが出来る人を配置することが今後必要ではないか。</li> <li>・学校現場は多忙であり、学校を取りまく環境、これまでの経緯、地域資源を踏まえたサポートができる人材が直接学校に入っていくことはとても効果がある。</li> <li>・都市公園という場所を(環境学習の資源に)位置づけてほしい。</li> <li>・1～2歳の子どもも対象に含め、「幼児期」というのを「乳幼児期」にしたらいいのではないか。</li> </ul>

## 2 第2回小委員会

日 時	平成27年10月8日(木) 15:00～17:00
場 所	兵庫県庁2号館2階 参与員室
出席者	鈴木会長、中瀬委員長、今井委員、岩木委員、小川委員、川井委員、清野委員、嶽山委員、名須川委員
内 容	兵庫県環境学習環境教育基本方針改定素案の審議
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球問題の根源は人間にあり、地球環境をどう守るかを考える視点が必要である。</li> <li>・都市と農村が、森・川・海でつながり、お互いに理解し助け合いながら、環境保全・創造活動に取り組んでいくことが必要である。</li> <li>・ジオパークなど、具体的な活動を取組例に入れるといい。</li> <li>・元々日本人が持っていた自然崇拜、基礎的な概念なども大事。</li> <li>・「自然との共生」において、人間にとっての自然のプラス面とマイナス面の両方の視点を入れていくことがこれから重要になる。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然と共生し、地域を愛するためには、地域の地理的な環境を理解することが必要。地域理解の要素も入れていただきたい。</li> <li>・先代から次代に「伝える」というのは「伝承」（という言葉）の方がはっきりと意思があってよい。</li> <li>・命のつながりやそれを育む環境のありようを実感するような命のとらえ方が必要。</li> <li>・「原則2」にある4要素をこの順番で学ぶものではなく、4要素が必要であるという書き方をしてほしい。</li> <li>・発達段階が非常に重要で、まず知識を得る前に感動してほしい。</li> <li>・生物多様性という言葉や考え方をに入れてほしい。</li> <li>・高校生では単に学ぶというよりは交流して意見交換もでき、そのことが協働に繋がる。県立尼崎小田高校などの取組例をぜひ入れてほしい。</li> <li>・ネットワーク形成で、分野（例：福祉、教育）のつながりも大事。</li> </ul>
--	---

### 3 第3回小委員会

日 時	平成27年12月10日（木）13:30～14:50
場 所	兵庫県庁2号館2階 参与員室
出席者	鈴木会長、中瀬委員長、今井委員、岩木委員、小川委員、川井委員、清野委員、嶽山委員、伴委員
内 容	兵庫県環境学習環境教育基本方針改定案の審議
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバルな視点が必要。環境問題の持つ国際性（地域と世界の関係性）について最初にふれてはどうか。</li> <li>・「生命」と「命」、「こころ」と「心」は表記上使い分けているのか。ひらがなで統一してはどうか。</li> <li>・「生物多様性保全プロジェクト」について、寄付を受けている企業名を紹介してはどうか。</li> <li>・人間の営みを環境に配慮したものに変えていくことが環境学習・教育の目的。地球温暖化等の環境問題は普遍的であり、地域により異なるものではない。</li> <li>・国際的機関の活用の具体的なイメージが分かるようAPNやIGES等の事例を入れたらわかりやすいのではないか。</li> <li>・企業に対してインパクトのあるものをつくるのは難しい。基本は学校教育。</li> </ul>